



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2018年10月14日(日) 9:30~12:00

(曇り後晴)

参加者 一般：2名(うち子ども0名)、
指導員：4名

テーマ 「アカトンボを見よう！」

この日は曇りという予報だったのに明け方から雨が降り、心配しましたが、始まる前に止んだので一安心。

まずは川原に下りてネナシカズラとアメリカネナシカズラの両種が絡まっているところを観察しました。それぞれ別の場所で生育しているところは何度も見っていますが、同じ場所にあるのは初めて見ました。花はアメリカネナシカズラの方が早く、ネナシカズラはまだ蕾でした。

さて、先月はマメ科の花が主役でしたが、今回はキク科の花です。堤防では草刈りのため背は高くありませんが、セイタカアワダチソウの黄色と、キダチコンギクの白い花が目立ちます。キダチコンギクは花だけ見るとヒメジョオンとそっくりですが、ルーペを使って、茎の毛の長さや総苞片の形状で違いを見比べました。

また、コセンダングサとコバノセンダングサが隣り合って生えている場所があり、葉の切れ込み方、舌状花の形状など両種の違いを比較できました。

その近くでオオバタクサが実を付けていました。これまで花はしっかり見ても、実は目立たず気づきませんでした。よく見ると金平糖のような突起のある面白い形状をしています。

コセンダングサの花には旅をする蝶のウラナミシジミが集まっていた。この時期に多く見られるシジミチョウの仲間で、ヤマトシジミなどより一回り大きく、翅の裏側に波状の模様があります。他にもウラギンシジミ、ツバメシジミ、ベニシジミ、モンシロチョウ、キタキチョウ、カタテハ、ツマグロヒョウモンなど多くの種が出ましたが、何といても参加者が喜んだのは渡りをする蝶として知られているアサギマダラが数頭見られたことです。ちょうど渡りの途中なのでしょう、優雅に舞ったり、セイタカアワダチソウで吸蜜したりして楽しませてくれました。

一方、この日のテーマのアカトンボですが、先月はマユタテアカネとミヤマアカネが見られたので、今回はアキアカネも山から下りて来る頃で、多く見られることを期待していました。しかし、予想は全くはずれ、わずか数頭が見られただけで、捕獲ができなかったため、アキアカネかナツアカネかの同定もできず残念でした。濃尾平野でアキアカネが激減していると話題になっていますが、今年は思った以上に深刻な状況にあるようです。(報告：齋竹)



(アサギマダラを見ているところ)

<その他観察できたもの>

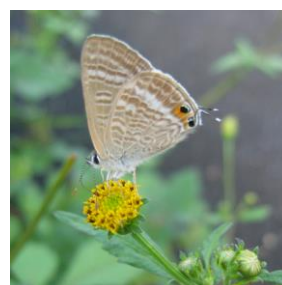
虫：ウスバキトンボ、マユタテアカネ、アキアカネ(or ナツアカネ)、オオアオイトトンボ、アオマツムシ、エンマコオロギ(声) 鳥：キジバト、ヒヨドリ、モズ(声)、ハシブトガラス、ハシボソガラス
花：アキノノゲシ、ブタナ、アメリカセンダングサ、ヒメムカシヨモギ、セイヨウタンポポ、アレンチヌスビトハギ、アレンチケツメイ、フジカンゾウ、キツネノマゴ、アレンチハナガサ、ハマクマツツラ、ツククサ、イヌコウジュ、ミスヒキ



(キダチコンギク)



(コバノセンダングサ)



(ウラナミシジミ)



(アサギマダラ)